

## 読者の声

### 庭で見つけた小さな生態系

増田 幸子  
(札幌市南区石山)

季節の移り変わりがはっきりしている北海道に暮らして、ごく身近な生き物をながめています。わが家の庭にはハナミズキ・サンショウ・ブルーベリーほかの木が植えてあり、家庭菜園ではミニトマト・ジャガイモ・アブラナ科の菜っ葉などを栽培しています。趣味で楽しむ家庭菜園ですから、殺虫剤や除草剤は使わずに、虫も草も自分の手で除去します。

去年も一昨年も、昆虫の子ども達、つまりイモムシ・毛虫などですが、数多く殺生しました。狭い菜園を毎日見回っても、見落としがあって「ゼロ」にはなかなかできません。飛来する蝶たちもつぎつぎ産卵していきます。

今年の夏は雨が少なくて、気温の高い毎日でした。6月から8月の半ばまで、植物たちは不思議と虫に喰われることもなく、すくすく育ちました。小さな菜園のダイコンやブロッコリーの上を白い蝶がひらひらと飛び、アゲハチョウも庭に来ているのですが、ひどい被害はありませんでした。ブロッコリーの葉には小さな喰い跡があり、サンショウの葉っぱには小さい小さい丸い卵があるけれど、どちらにも幼虫の姿がありません。なぜ?と思いましたが、この謎はまもなく解けました。隣家の物置の天井裏にスズメの夫婦が住みついて子育て中でした。うちの庭は彼らのテリトリーになつたらしく、屋根のひさしの先端にちょこんと留まった一羽が鳴きながらあたりを見回しています。庭にふいに出ると、野菜の陰から数羽のスズメが飛び立ちます。

私ども人間は一日中虫退治をしていられませんが、スズメたちはいわば「虫取りのプロ」で、生存がかかっているのですから、毎日毎日、見回りを欠かさず虫を捕ってくれていたのです。葉の茂ったハナミズキの枝の中にスズメがいて、その声を聞きながら私は畠の手入れをする。

気持ちが豊かになる北海道の夏暮らしです。

お盆が過ぎて、8月20日頃には庭にスズメたちをあまり見かけなくなりました。どうしたのかと思っていたら、数十m離れた空き地にたくさんの

スズメがいました。買物の行き来に横を通ると、20羽以上のスズメが一斉に飛び立ちます。

人が住まなくなった空き家の敷地には雑草が生い茂っています。メヒシバ・エノコログサ・アカザ・ヒメムカシヨモギ・ニガナ・スペリヒュなどなどが元から植わっていた園芸植物を圧倒してはびこっているのですが、そこでスズメは植物の種子を食べていました。

お気に入りはメヒシバの種子のようです。地面に這っているので、スズメでも嘴が届くでしょう。長い細い茎の先に種を付けているエノコログサには、上手く取り付けないようです。

植物の方も、「簡単には食べさせない」ような仕組みになっています。

そして、ある日、庭でスズメたちの悲痛な鳴き声が響き渡りました。近所の猫が一羽のスズメを捕らえたのです。

植物と、昆虫と、鳥と、ほ乳類、小さな小さな生態系です。ハナミズキの枝先にはすでに来春の花芽が用意されています。冬のあとにはまた新しい一年が始まります。